

こどもと共にひらくまちづくり

- 創造性が響きあう、こどもまんなか加賀市まちづくりコンセプト -

こどもと共にひらくまちづくりは、大人もこどもも年齢を問わず、
共に歩む存在として互いに創造性を発揮しあうことで、
世代をつなぐ持続可能で創造的なコミュニティづくりを目指す取り組みです。

大切にしたい「3つの視点」

01 聴く

- こどもを生まれながらに豊かな創造力を持つ一市民として尊重し、こどもたちの声や姿を丁寧に聴く
- 大人同士も、互いの声を聴き合い尊重しあう

02 動く

- こどもの声を聴くことで固定観念が揺さぶられる
- 大人も創造性を発揮し、こどもと大人が「双方向」で学び合い、行動にうつす

03 育てる

地域のコミュニティやまちづくりのプロセスにこどもが参加することで新しい視点が吹き込まれ、
創造的なコミュニティが育まれる

わ
ら
っ
と
っ
た

ま
ち
が

は
ち
の
す

い
え、
み
ち、
や
ま、
い
ど、

が
く
ら
い



Q.

「まちがわらっとった」
この表現から私たちはこどもたちの受け取った加賀のまちの温かさを知ることができます。

新しい出会いから生まれる言葉がある。

こどもも大人も、手を取り合ってまちづくりをひらく時
その先にはどのようなまちの風景が広がっているのでしょうか。

— 目指す姿

先行き不透明で答えのない時代、こどもの創造力を原動力に、市民一人ひとりの創造力が生きるまちづくりを進めていきます。これから10年、20年先に向けて「帰ってきたくなる」「住み続けたい加賀市」を創っていくために。主役である市民みんなで考え・行動した先にその答えがあります。

こどもも大人も一市民として
主役になって考えるまちづくり

自分の表現や行動が
大事にされるまちづくり

“帰ってきたくなる” “住み続けたい” 加賀市の実現

— 具体的なアクション

「目指す姿」を実現するための第一歩は、一人ひとりの日常のなかでのアクションです。

Q. 「帰ってきたくなる」「住み続けたい」加賀市を実現するために、あなたならどこで、誰と、どんなアクションを起こしたいですか？



HINT

以下のアクションは、加賀市の未来を描く「こどもと共にひらくまちづくり」市民ワークショップで出たアイデアの例です。ぜひ、皆さん自身の生活のなかでできること・やりたいこと、行動した先のまちの未来の風景を想像してみましょう。

こどもと一緒に

まちなかで加賀の宝物を探してみる

Q. アクションを起こしたら何が変わる？

- まちの面白さに気づく
- 新しい視点や発想と出会える
- こどもも大人も成長できる



地域のなかで

多世代のおしゃべりで感性を刺激し合う

Q. アクションを起こしたら何が変わる？

- 知り合いが増える
- こどもの発想に大人の視点も広がっていく
- アイディアも湧き出る



行政と一緒に

こどもの作品を家や公共空間に展示してみる

Q. アクションを起こしたら何が変わる？

- まちに好きな場所が増える
- ワクワクが身近になる
- 時間の過ごし方が豊かになる



ワークショップで集まったアクションをまとめた「アクションカード」をダウンロードできます！

(加賀市HP内)

一 実現にむけて

2029年までを一区切りとしながら、コンセプトをまんやかに、
子どもと共にひらくまちづくりに関するアクションを広げるための活動を推進していきます。

2026

- ・ 庁内外での土台づくり（関係機関・団体等とのつながりを耕す）
- ・ 各自マイアクションに取り組んでみる

試行的アクション

2027

- ・ マイアクションの継続
- ・ 庁内外での土台づくりの継続
- ・ 情報発信・仲間共有・対話の場づくり

2028

- ・ マイアクションの継続
- ・ 庁内外での仕組みづくり（関係機関・団体等との協働）
- ・ 情報発信・共有・対話の場づくり（継続）

アクションの
実施・発信・検証

2029

- ・ マイアクションの継続
- ・ 庁内外での仕組みづくりの継続
- ・ 次期コンセプト策定に向けた振り返り、効果検証

活動や実践を振り返りながら
“帰ってきたくなる” “住み続けたい” 加賀のまちやコンセプトを見直し

※本コンセプトは加賀市子ども計画（令和7年～令和11年）の基本目標を実現するための行動計画として位置付けています。

アクションの一例

こどものこえ展の開催

子どもたちが、加賀のまちや自然、さまざまな姿に出会う中で生まれる、創造性あふれる線、色づかい、言葉、身体表現など、100通りの表現＝「子どもたちのこえ」がまちを彩る定期企画。市内商業施設や公共施設などに展示を行います。



こどもの探究に寄り添う

「まち」をテーマに探究を進める中で、子どもたちとの活動に関心をもったまちの人たちとの新たなつながりが生まれました。子どもたちとの会話や表現に大人も心を動かされ、まちの魅力を再発見する機会になっています。



“わたしのアクション”の発信・共有

加賀のまちには、「子どもと共に」を日々のアクションに取り入れている市民・事業者の皆さんがいます。その一つひとつのエピソードをストーリーとして発信し、新たなアクションへとつながるようSNSや広報誌等で紹介していきます。



みなさんのアクションの可視化や実現を行政としてサポートしていきます

※子どもとは・・・子ども大綱の定義に基づき、乳幼児期から若者へ至る「心身の発達の過程にあるすべての存在」を指します。

一 なぜ、子どもと共にひらくまちづくりを行うのか？

加賀市では、2023年に保育ビジョン“「学びの未来」を、0歳から。”を策定し、「子どもは無数の可能性をもつ豊かな存在」という【子ども観】のもと、保育現場での実践を積み重ねています。

子どもたちは、加賀のまちの「ひと・もの・こと」と関わりながら、自分なりの表現を生み出しています。そうした子どもの創造性に学び、刺激されることで、大人が加賀のまちや文化と出会い直し、自らの創造性をひらくきっかけになります。

本市では、子ども基本法・子ども大綱に示される「子どもを権利の主体として尊重する」という考え方を踏まえ、子どもを一市民として尊重し、地域社会を「共につくる」存在として位置づけ、世代を超えて互いに学ぶ文化が豊かな、加賀市の未来を目指していきます。この「子どもと共にひらくまちづくり」は加賀市教育ビジョン「BE THE PLAYER」の理念にも基づくものです。

子ども から おとな・まちへ

多様な大人と出会い、まちづくりに参加し、豊かな実体験を育む

加賀のまち

子どもの創造性に刺激を受け、共に創造性をひらき、まちと出会い直す

おとな から 子ども・まちへ

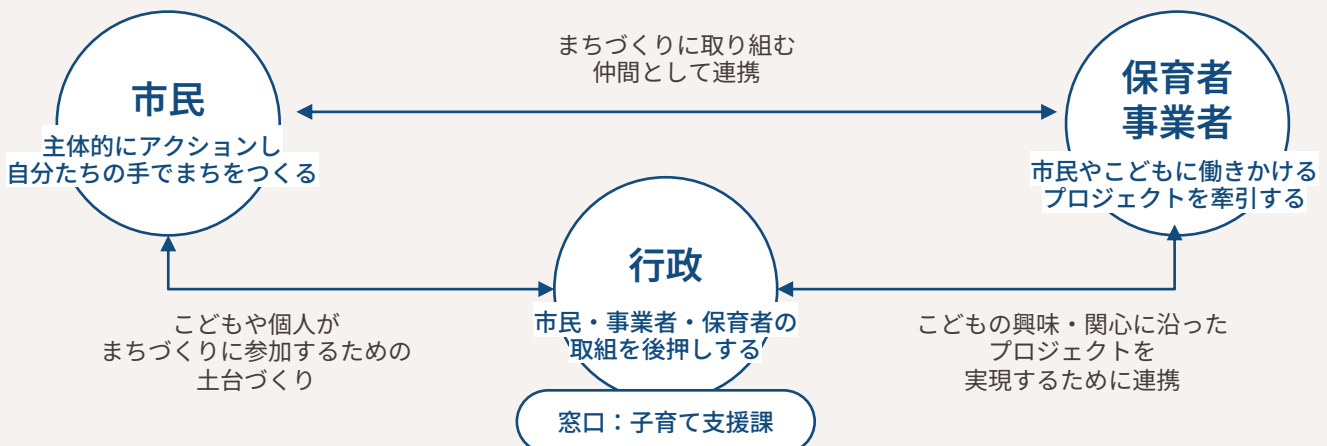
加賀市保育ビジョン



保育実践の様子を子育て支援課のInstagramで発信しています



一 実現のための連携体制



アクションやプロジェクトの実現に必要な関係機関と連携